

平成28年度 学校評価書(中間評価)

【教育目標】 「心身ともに、たのもしい子の育成」

【めざす児童像】

- ①互いに学び合う子【知】
- ②やさしく助け合う子【徳】
- ③健康で命を大切にする子【体】
- ④地域を大切にし礼儀正しい子【郷土愛】

【目指す学校像】

- 「今日が楽しく 明日が待ちどおしい学校」
～「わくわく」「どきどき」「感動」を根底に、子どもの心に火をつける！～
- ・意欲的に授業・行事等に取り組む子どもたちに(達成感、満足感)
 - ・大きな声であいさつし、自分を表現できる子どもたちに(自信)
 - ・自分を知り、より良い自分に挑戦する子どもたちに(目標、自主性)

1 学習指導

評価目標	具体的な取組	評価の観点と達成状況(＊)	達成度評価基準	学校自己評価	成果のみられた取組や改善策	関係者評価	学校関係者評価委員の意見および改善点
学習意欲が高まるような空間づくりに努め、児童の学習力向上を目指す。	・学習規律と学習ルールの共有化 ・生徒指導の3機能を生かした授業づくり ・考えさせる時間、話し合いの時間を重視(三角ロジックの徹底) ・学習用語習得につながる教室掲示や学習コーナーの充実	学習規律と学習ルールが、教師と児童の間で共有化され、落ち着いて学習に取り組んでいる。 ＊児童・保護者・職員アンケート 86.8 95.9 87.9 平均87.9%	A: 80%以上 B: 70%以上 C: 70%未満	B	・学年に応じた重点目標の設定 ・全職員共通理解のもと、粘り強く指導 ・共通の取組と取組に対する評価	A	・実際に学校で学習している児童と職員、直接あまり目にしない保護者としては、少し差があるのだと感じた。 ・今までの詰め込み型、暗記型からの転換を目指した教育の基礎なので、一層の努力を願っている。
		学校研究の視点(三角ロジックの徹底)を重視した授業が、児童の学習力向上につながっている。 ＊児童・職員アンケート 75.7 90 平均82.9%	A: 80%以上 B: 70%以上 C: 70%未満	C	・話型を用いて理由と根拠を区別した表現の指導	B	
学びの経験値を高めるよう努め、児童の学習力向上を目指す。	・学習用語等の確実な定着(用語テスト、用語を使用した説明活動等) ・学んだことを生かす場の設定(各教科、委員会活動、各行事等) ・日常の書く活動の充実(短作文、ノート、新聞を活用した意見文等) ・家庭学習の充実(20・40・60運動＋10分)(予習力、復習力向上) ・土曜授業の充実(基礎・基本の定着、弱点補強:題意を読み取る力、線分図等)	短作文や新聞を活用した意見文、振り返り分などを書く活動が有効であり、成果を上げている。 ＊短作文50枚達成率 1学期15枚に対して 低80 中87 高153 平均106.7%	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 80%未満	A	・書く機会を増やす(特に1年生) ・週末課題の活用 ・見直しシステムの運用	B	・とても良いと思う。「書く機会が増える」＝「学ぶ機会が増える」と思うので、続けてもらいたい。 ・家庭学習の習慣づけと土曜授業の一層の充実を期待する。 ・予習力があるのかどうか、我が子からはあまり見えてこない。
		家庭学習が、予習力や復習力の向上につながっている。 ＊家庭学習時間 平日低33.1 中58.2 高76.9分 休日低32.7 中50.1 高69.5分	A: 80%以上 B: 70%以上 C: 70%未満	A	・ナイスばり勉の基準の再検討と明確化 ・予習ガイダンス	A	
個に応じたきめ細かな指導の充実に努め、基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指す。	・補充学習、発展的な学習の充実(組織的な対応:放課後学習) ・「リテラシータイム」の充実(組織的・計画的・継続的:戦略) ・年2回の全校テスト実施 ・学習用語テスト等の取組	5限開始前の10分の補充学習が組織的・計画的・継続的に行われており、成果を上げている。(市学力調査目標達成率) ＊参考:職員アンケート 90.5%	A: 80%以上 B: 70%以上 C: 70%未満	A	・全校共通の取組(曜日毎のメニュー) ・内容の工夫(活用力向上)	A	・「全校テストの回数が減ったのはなぜなのかなあ」と言っている保護者の声を聞いた。私もなぜかと思っていた。
		学習用語等を定着させる取組が有効であり、成果を上げている。(全校テスト目標値達成率) ＊参考:職員アンケート 78.5%	A: 80%以上 B: 70%以上 C: 70%未満	B	・学力調査の分析をふまえた取組(リテラシータイムや土曜授業)	A	

A:十分に達している B:概ね達している C:達していない

2 生徒指導

評価目標	具体的な取組	評価の観点と達成状況（＊）	達成度評価基準	学校自己評価	成果のみられた取組や改善策	関係者評価	学校関係者評価委員の意見および改善点
子どもたちの自尊感情、自己肯定感を高めるよう努める。	・あいさつ、あきらめない、あとかたづけを通した集団づくり(3あ運動) ・生徒指導の3機能(「自己決定」「自己存在感」「共感的理解」)を生かした授業及び諸活動 ・達成感、満足感が高まる諸活動(教師主導から児童の企画運営へ)	「3あ運動」が教師と児童の間で共有化され、活動する姿に結びついている ＊児童・保護者・職員アンケート 92.9 77.3 78.5 平均82.9%	A: 80%以上 B: 70%以上 C: 70%未満	A	・「あいさつ」の取組強化	B	・児童育成の基礎は「3あ運動」だと思う。これだけで人間形成ができるというてよいほど大切なものなので、重点的に取り組んでほしい。 ・なかなかあいさつを自分からしてくる子が少なく、少し悲しく感じる。あいさつは家庭の中から自然にでてくるようにしていきたいと思うが、家庭の中でのあいさつが減っているのが原因ではないかと思う。遊びに来る子や外で出合った子に声をかけても、軽い会釈をするかしないか程度で、声は出ず、無視する子も多いと感じる(高学年ほどそうである)
		生徒指導の3機能を生かした授業や諸活動を行い、学んだことを生かして児童が自己決定し、協力して活動する場を作っている。 ＊児童・保護者・職員アンケート 91.6 92.8 90.9 平均91.8%	A: 80%以上 B: 70%以上 C: 70%未満	B	・児童委員会を活動内容や方法を児童自らが考え決定する仕組みへの変更 ・代表委員会の設置 ・校内のルールや各クラスでの取組目標を児童で決定 ・児童の意識を高める(継続した取組)	A	
いじめ、不登校等の未然防止、早期発見に努める。	・いじめに関する定期的な調査の実施と迅速な対応 ・Q－Uテストの実施と結果を生かした学級経営(いじめアンケートと連動) ・スクールカウンセラー、支援員との連携と指導の充実	Q－Uテストやいじめアンケートの結果を生かした学級経営を行い、いじめ等への迅速な対応や予防に努めている。 ＊保護者・職員アンケート 87.3 94.7 平均90.9%	A: 80%以上 B: 70%以上 C: 70%未満	A	・外部講師による研修(県教育センターサポート研修、いじめアドバイザーによる研修)	A	・代表委員会の活性化を望む。 ・1学期中にいじめ4件というのは大小あるでしょうが残念です。
		児童理解の会やケース会議で共通理解したことを基に、連携して指導や支援を行っている。 ＊職員アンケート 96.4%	A: 80%以上 B: 70%以上 C: 70%未満	B	・ケース会議や共通理解を図る時間の確保	A	

A:十分に達している B:概ね達している C:達していない

3 心の教育・体力向上

評価目標	具体的な取組	評価の観点と達成状況（＊）	達成度評価基準	学校自己評価	成果のみられた取組や改善策	関係者評価	学校関係者評価委員の意見および改善点
豊かな心を育てる道徳教育を推進する。	・時期とねらいを明確にした計画的な道徳及び学級活動の実践 ・保護者、地域と連携した道徳の授業(ゲストティーチャー等の積極的な活用)	年間計画に基づき、時期とねらいを明確にした道徳教育及び学級活動の実践を行っている。 ＊職員アンケート 95.0%	A: 80%以上 B: 70%以上 C: 70%未満	A	・年間計画に基づいた実践 ・指導時期や指導内容の見直し	A	・保護者やゲストティーチャーの生の声を聞くのは良い。 ・親子で早寝・早起き・朝ご飯をしてみたら、達成率が上がるかもしれない。 ・基本的生活習慣の確立は保護者次第なので難しい面があると思うが、すっきりモーニングの取組を強化してほしい。 ・鳳至小の特徴を出すため、士気を高めるために、県下一、全国一の種目を選定して、努力してほしい。
望ましい生活習慣の確立を図り、健康管理を推進する。	・基本的な生活習慣の確立(早寝・早起き・朝ご飯、SNS機器等)	早寝・早起き・朝ご飯を中心とした指導を行い、児童の基本的生活習慣の確立に努めている。 ＊就寝時間目標達成率 75.3%	A: 70%以上 B: 65%以上 C: 65%未満	C	・学期1回のすっきりモーニングの取組を継続、しっかりと指導	B	
体力向上に努める。	・年間を通して「持久力」「敏捷性」の向上を目指す ・鳳至オリンピックの実施	年間を通した計画的・継続的な取組が体力向上につながっている。(50m走目標達成率) ＊4年男女・5年男・6年女達成	A: 70%以上 B: 65%以上 C: 65%未満	B	・朝の運動タイムでの取組を継続	A	

A:十分に達している B:概ね達している C:達していない

4 保護者・地域との連携

評価目標	具体的な取組	評価の観点と達成状況（＊）	達成度評価基準	学校自己評価	成果のみられた取組や改善策	関係者評価	学校関係者評価委員の意見および改善点
地域に根ざし特色ある教育を進めるとともに、保護者・地域から信頼される「開かれた学校づくり」を目指す。	・参観から参画へのPTA活動 ・保護者、地域と連携した各種行事の企画及び運営(各教科、道徳、総合等) ・学校ホームページの作成と更新 ・学校・学級だよりの発行(活動の意義・目的と児童の変容を知らせる)	保護者はPTA活動に積極的に参加している。 ＊1学期参加率48.3%	A: 45%以上 B: 37%以上 C: 37%未満	A	・懇談会の参加率を向上させるため周知の充実と対応の見直しを図る	B	・学校便りは特Aとする。いつも発行を楽しみに読んでいる。
		学校便りや学級便り、ホームページなどから学校の様子がわかる。 ＊更新回数 111回、保護者アンケート94.4%	A: 200回以上 B: 150回以上 C: 150回未満	A	・ホームページの更新は順調 ・学級便りの充実について指導	A	

A:十分に達している B:概ね達している C:達していない

<学校への要望・意見・感想>

- ・評価をすることは難しいことですが、冷静に評価して次の改善に生かしてください。厳しすぎてもダメ、甘いのは評価に値しない。学校改善に生かしてください。
- ・全体的に先生方の努力を評価します。子供達の基礎は「3あ運動」だと思いますので、なお一層努力をお願いします。
- ・保護者の理解と協力が足りないように思う。今回の評価と直接関係はないが、例えば自家用車での送迎の際、たばこを吸いながら運転をしている様子が見受けられる。皆ではないが、子供に向かう姿勢の欠如を感じる。

